

地図帳を効果的に活用する学習指導の工夫

－中国の地域的特色を明らかにする学習指導を例に－

東京都公立中学校教諭

1 はじめに

地理の学習では、地域的特色を明らかにする技能を身につけることが求められる。そのためには、地表における地域差をとらえることが必要である。朝倉隆太郎が、「地域差は比較によって明らかにされるものである」と述べているように、地域差を明らかにするためには地理的事象の比較は欠くことができない。

地理的事象の比較を行う場合、現地調査を行うことが理想であるが、実際にそれが可能な単元は、「身近な地域」や自分が住んでいる都道府県など、ごく一部である。とくに、世界地理の単元においては、授業のなかで、現地調査を行うことはほとんど不可能である。現地調査を行えない場合は、地図、景観写真、統計資料、文献資料などの間接的な資料を比較の媒体として活用することになる。なかでも地図は、地域的特色を空間的に把握することのできる最も有効な資料の一つである。そこで、本稿では中国の地域的特色を明らかにする学習指導を例に、地図を効果的に活用する学習指導の工夫について述べたい。

2 地図指導の工夫

(1) 日本と比較することによって、中国のス

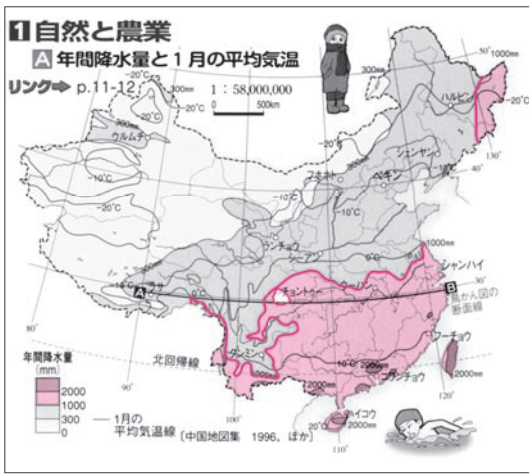
ケールを実感的にとらえさせる

地図帳p.19～20にある「東アジア」の拡大図には、中国が網羅されている。中国だけみても、中国の大きさを実感的にとらえることは難しい。しかし、同じ拡大図の中に日本も描かれているため、日本と比較すると、スケールが実感としてとらえやすくなる。たとえば、スーチョワン盆地を日本と比較してみると、北海道と同じくらいの広さにみえる。また、中国で最も長い長江を日本列島にあてはめてみると、北海道から九州までの距離よりもはるかに長いことがわかる。これらのことから、スーチョワン盆地や長江が、日本各地にある盆地や、短くて急流の多い日本の河川とは比較にならないほどの大きな盆地や川であることがとらえられる。

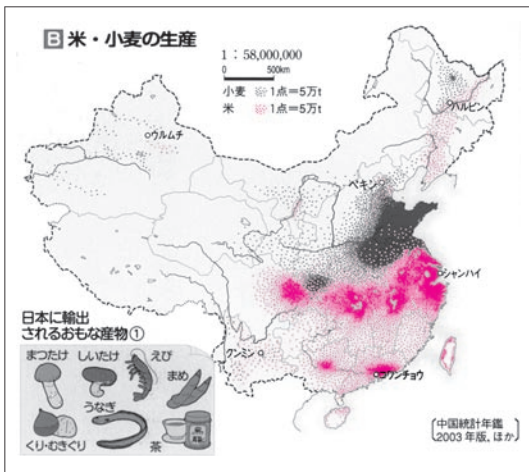
普段見慣れている日本の個々の地域と比較することで、中国の各地域におけるスケールを実感としてとらえやすくなるのである。

(2) 中国の土地利用を降水量との関係でとらえる

地図帳p.19～20の「東アジア」の拡大図から、中国全土の土地利用と植生をみると、南部は稲作地帯が広がり、北部は畑作地帯になっていることがわかる。また北西部には、草原や砂漠地帯が広がっていることがとらえられる。



「中学校社会科地図 初訂版」 p.21



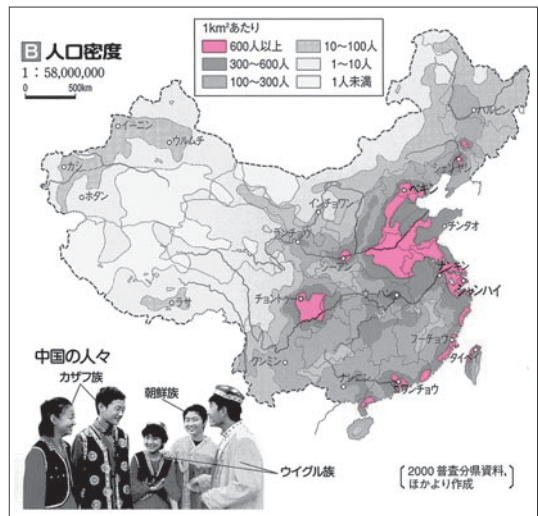
「中学校社会科地図 初訂版」 p.21

この「土地利用図」と地図帳p.21の「年間降水量と1月の平均気温」や「米・小麦の生産」の主題図とを比較してみると、年降水量1000mm以上で気温の高い南部は稲作地帯になっていること、降水量1000mm以下で気温の低い北部は、小麦の生産の多い地域になっていることがわかる。また、北西部の年降水量が300mm以下の地域では、羊を多く飼育していることがとらえられる。このように、中国では気温や降水量などの自然条件によって、土地利用が3つに大きく分けられることに気づく。

また、教科書p.108、109や地図帳p.21には、これらの地域で伝統的に多く食べられている料理が紹介されている。これらを見ると、降水量の多い南部では、米をおかゆにして食べていることがわかる。一方、降水量が少なく気温の低い北部では、小麦を麺にして食べることが多い。また、降水量が少なく、小麦も栽培できない地域では羊を多く飼育し、それを焼いて食べる料理が多いことに気づく。

(3) 自然環境や社会環境と人口密度とを関連づける

人間の生活と自然環境との関連も地図帳から読みとることができる。地図帳p.22の人口密度を示した主題図をみると、東部、なかでも沿岸部は人口密度が高く、北部や西部は人口密度が低いことに気づく。これを地図帳p.19～20にある「東アジア」の拡大図と比較してみると、人口密度の低いのは、タクラマカン砂漠やゴビ砂漠、大シアンリン山脈のある北部や、4000mを超えるチベット高原のある西部などの自然環境の厳しい地域で、人口密



「中学校社会科地図 初訂版」 p.22

度が高いのは東部の平原地帯などの住みやすい地域であることがわかる。

一方、地図帳p.22の工業の主題図をみると、工業のさかんな地域の人口密度が高いことに気づく。さらに、「経済格差」の主題図と関連づけてとらえてみると、1人あたりの国民総生産の低い内陸部から高い沿岸部へ、人口が移動していることがとらえられる。すなわち、沿岸部の人口密度が高いのは、自然環境だけでなく、工業や経済格差といった社会環境とも大きく関連しているのである。

このように、同一地域の複数の主題図を関

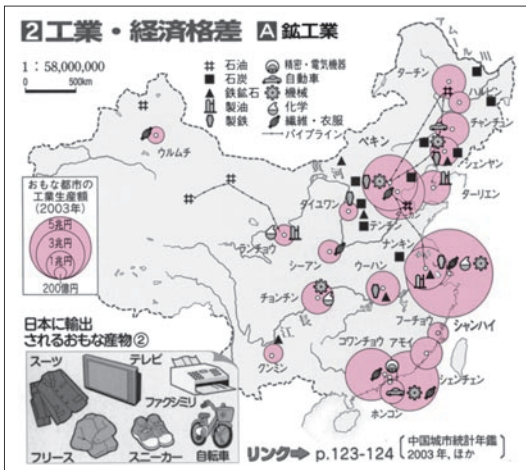
連づけてみると、その地域で顕著にみられる地域的特色の背景が考察しやすくなるといえる。

3 おわりに

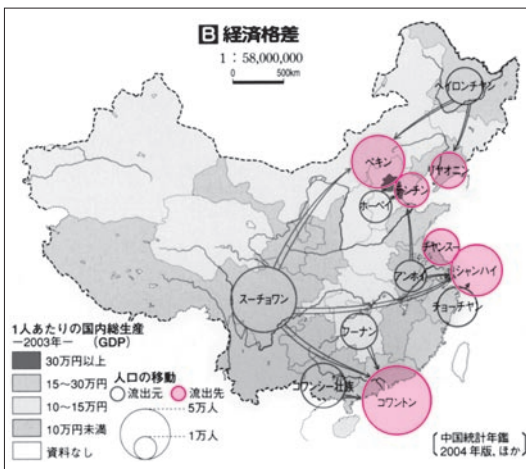
これまでわが国の地理の学習は、教科書が主で地図を従とする指導が行われることが少なくなかった。教科書には、地理学者がとらえた地域的特色が記述されている。そのため教科書を中心とした学習では、地理の学習のなかで大変重要な、地域的特色をとらえる作業が行われず、教科書などに記述された結果だけをまとめたり、覚えたりするような学習になりがちである。同様に、学び方を学ぶことを重視した現行の学習指導要領においても、情報を検索する手段が教科書から、図書館の本や百科事典、旅行ガイドブック、インターネットなどへと変わっただけで、地域的特色を写したり、まとめたりすることには変わりはない。したがって、これらの学習を通して身につけているのは、文章や資料をまとめる能力であって、地理的な見方・考え方や地域性をとらえる能力ではない。

しかし、地図を主として教科書を従とするような学習指導を心がけ、地理学者が地域的特色をとらえる際に活用したのと同じように地図を使って考察するような学習活動を行えば、地域をとらえる能力や地理的な見方や考え方を育成することは可能である。したがって、教師は常に地図を中心とした学習指導を心がけるべきであろう。

* * *



「中学校社会科地図 初訂版」p.22



「中学校社会科地図 初訂版」p.22